審査を終えて

いわき市民美術展に独立した陶芸部門ができたことに、まず敬意を表します。普通は工芸部門として構成され、金工、木工などと陶芸がまざりあっているものなのですが、そうではない陶芸の一人歩きに感心させられました。そうした陶芸の熱意を裏づける作品を見せていただいて、さらに驚きを感じたのは、作品の傾向の多様性もさることながら、中にキラリと光る仕事が見られたことでした。

市長賞の作品は、土の造形を現代美術の領域にまで高めています。議長賞は、現代の新たな用としての器物性を発揮しています。教育長賞は、伝統的なやきもののおもしろさを現代的な造形感覚でとらえています。

この三つの傾向が、今後のいわき市民展陶芸部門の特色として定着しそうな気がしますし、それを強く望むものです。陶の立体造形、新たな用を考える器物、伝統的なものの現代への展開と、今後が大いに期待されます。

一言、きびしいことを言わせていただきますと、土の造形の楽しさをもっとおもいきって表現してみてもいいのではないか、と思いました。土で何かをつくって焼くという行為は、もともと美術としての自由な領域をもっているのですから。他の美術のジャンルにない独自性を目指して、陶芸を開かれたものにしたいと思うのです。

1995年3月8日

審査員 伊藤公象
（女子美術大学芸術学部教授）

第24回

陶芸の部 入賞者

賞名	題名	氏名	住所
いわき市長賞	地上に堕ちた青い天使	吉田重信	
いわき市議会議長賞	てんとう虫小物入れ	坪内亜希子	
いわき市教育委員会教育長賞	花器	井上征子	
《佳作》			
いわき商工会議所会頭賞	壺	木田敏政	
いわき市文化団体連絡協議会会長賞	森	野木ミサ子	
福島県報徳社賞	孔雀文花器	古樫冬子	
美術館友の会賞	大地	平子貞男	
有限会社平電子印刷所賞	雪林	吉川俊紀	
ギャラリー界隈賞	スクリュー	鈴木久伸	
ギャラリー磐城賞	大皿	塩キミ子	

審査を終えて

いわき市民美術展も、今年で第25回展を迎えられ、昨年より陶芸部門が新たに設立されたそうですが、今年はまだ二年目というのに、皆様方の努力の跡がにじみ出ている力作揃いで感心致しました。

中でも、市長賞を受賞された、伊達義道さんの灰釉鉢は、何のてらいも無い素直な作品ですが、焼きしまる素材の陶土を生かした、その上、型の良さ、重量バランスに大変調和の取れた、誰しもが、ちょっと使ってみたくなる様な、大変好感のもてる素晴らしい作品でした。次に議長賞の森大岳さんの作品は、大自然の躍動をそのまま作品にした様な大変魅力ある力強い作品でした。又、教育長賞の太田太さんの作品、面取壺は、色彩、型のバランスもさる事乍ら、面取りをする事に依って更に全体の型を引きしめた好作品であります。いずれの作品も、個性のにじみ出ている作品だけに今後の仕事に大きな期待を寄せたいと思います。

ところで、あえて苦言を申せば、皆様方の作品を制作するに当たっての、発想・構想は大変素晴らしいものがございますが、作品造りに一番大切な、技術・技法に、もうひとつの難がございます。プロとアマのへだたりは仕方の無い事ですが、皆様方の素晴らしい発想・構想が、単なる〝絵に描いたぼた餅〟に終わらない様に、更なる技術・技法の修得に努めて戴きたいものでございます。

佳作作品の講評

- 佐藤伸利さんの「耳付花瓶」は、型にはもうひとつの難点はあるが、青磁と辰砂の掛け分けの調和が美しい。
- 若松太久さんの「花器」は、ロクロが大変上手であるが、欲を言えば耳にもうひとつの工夫をされてはいかがだろうか？　大変素直な作品である。
- 石井光栄さんの「ぬばたまの壺」は、作品題名は、壺となっているが、替蓋をつければ、使い勝手の良い水指にもなる。ちょっとそばに置いてみたくなる様な素敵な作品である。
- 古樫冬子さんの「ぐりぐり陶箱」は、おしまれるのは、蓋の裏のキズである。それがなければ上位三賞の中に入れたかった作品である。造型、色彩、それに力強い彫りの紋様が、生き生きとした好作品である。又この作品で注意すべき点は、蓋の横のうわぐすりを、もっと丁寧に施釉して欲しい。次年度に期待します。
- 後藤妙子さんの「花器」は、女性らしく仕事が大変丁寧で好感のもてる作品。スカシにもうひと工夫欲しいが、スカシがこの作品を生かしている。
- 坪内亜希子さんの「コイ絵皿」は、この絵皿は、粗朴で大胆な発想が何とも素晴らしい。誰しもがちょっと使ってみたくなる様な暖かいぬくもりのある作品である。
- 秋山玲子さんの「水指」は、作者に尋ねてみないとわからぬが、この方はおそらく替蓋まで御自分で作られたのではないか？　そうであればなかなかの力作であるが、ロクロの修得には更なる努力を期待したい。

1996年3月6日

審査員　宗　像　亮　一
（宗像窯　七代目）

第25回

陶芸の部　入賞者

賞名	題名	氏名	住所
いわき市長賞	灰釉鉢	伊達義道	
いわき市議会議長賞	縄文裂器「自然（じねん）」	森　大岳	
いわき市教育委員会教育長賞	面取壺	太田　太	
《佳作》			
いわき商工会議所会頭賞	耳付花瓶	佐藤伸利	
いわき市文化団体連絡協議会会長賞	花器	若松太久	
福島県報徳社賞	ぬばたまの壺	石井光栄	
美術館友の会賞	ぐりぐり陶箱	古樫冬子	
有限会社平電子印刷所賞	花器	後藤妙子	
ギャラリー界隈賞	コイ絵皿	坪内亜希子	
ギャラリー磐城賞	水指	秋山玲子	

審査を終えて

今回は例年より出品点数が少ないようであった。いわき市民美術展の陶芸部が開設されて三年目とのことであるが、何事も三年目というのはひとつの節目であり、むづかしいところである。

さて市長賞の星尚子さんの作品はトルソ風の造型作品で、光沢を消した黒いマチエールとシャープな稜線が作品の緊張感を高めた破綻のない存在感のある作品に仕上げている。

議長賞の根本寿恵子さんの作品は重厚でどっしりとした作調で、黒釉と盛り上がった白釉が壺に変化を見せ、単調さを救って躍動感を表している。

教育長賞の井上征子さんの作品は素朴な古代埴輪を思わせるような作風で、赤味のある土味と下部の黒くいぶしたような焼き上がりが、やわらかい曲線とあいまって好ましい作品である。

その他に佳作と思われる作品を七点選ばせてもらったが、象嵌などの丁寧な仕事ぶり、花器などに見る発想の面白さ、焼成の仕上がりの良さなどをポイントにして選抜した。

出品作全体を見廻して、皆さんが楽しくまた真剣に陶芸と取組んでいる様子が窺えて好ましく思われる。

ただ、大作力作のなかにちょっとした焼き疵が見られるものが何点かあり、選に洩れてしまって残念なことであった。

これからも、市民の皆さんが積極的に自信作を応募されることを望んでやまない。

1997年3月5日

審査員 鳥 羽 克 昌
（走泥社同人）

第26回

陶芸の部 入賞者

賞名	題名	氏名	住所
いわき市長賞	遊 97 − Ⅱ	星 尚子	
いわき市議会議長賞	花器	根本 寿恵子	
いわき市教育委員会教育長賞	壺	井上 征子	
《佳作》			
いわき商工会議所会頭賞	華三島壺	伊達 義道	
いわき市文化団体連絡協議会会長賞	壺	玉橋 ユキエ	
福島県報徳社賞	春景（花器）	平子 タキ子	
美術館友の会賞	貝形花器	古樫 冬子	
有限会社平電子印刷所賞	雪どけ進む尾瀬火燧ケ岳	鈴木 康美	
ギャラリー界隈賞	あじさい	小川 節子	
ギャラリー磐城賞	染錦金彩銅羅鉢	峰 丘	

審査を終えて

今回が4回目となるいわき市美展の陶芸の部では、出品点数が昨年より14点増え70点になったそうで、そのことは大変喜ばしいことだと思います。

審査をしてみての全体的な感想は、手の込んだ作品や努力の跡が窺える作品が多く、アマチュアとしてはレベルがちょっと高いかなぁと思いました。

ただ、気になった点としては、加飾と器面がバラバラで、無くても良いものがついていたり、ついているものやその位置が悪かったりで、全体のバランスを崩しているものが多々あったことです。受賞した作品のなかでも、そうした余分な装飾がなければ、もっと上位の賞にくる作品がありました。また、技術的な面では、器の口や底のつくりの良くないものが目立ちました。

そうしたなかで、市長賞を受賞した古樫冬子さんの「ハート（ハート）」は、やはり口と底のつくりに一部問題を抱えていますが、緑と茶色による彩色と、かたちや大きさとの調和が良く、工芸として非常によくできていました。入れ子の小さいほうから5つだけの組み合わせにしたとしても十分に市長賞に値しています。議長賞の平子タキ子さんの「道」は、ふわっとして茫洋としている所があり、そのアマチュアっぽさに好感をもちました。教育長賞の和知キミ子さんの「白萩花鉢（ゆめ）」は、非常に手が込んでいて努力賞と言え、少し違ったタイプの器にそうした意識を向けるともっと良くなると思いました。

陶芸を手掛ける心構えとして重要なことを挙げれば、ひとつは釉薬をかけ過ぎないことです。そしてもうひとつは「見せよう」とし過ぎないことです。素直でいいのです。器は飾ることよりも使って楽しむものだということを念頭に置いて、これからの創作を進めてみて下さい。使って大丈夫ならば、飾っても大丈夫です。テクニックの問題もありますが、この二つが良い陶芸をつくるための二大要素だと私は思っています。

また、日頃から古い陶磁器類を見たり、良いものを数多く鑑賞し、個々の好みを磨き、趣味のレベルを上げていくことも大切です。そうした陶芸の勉強の積み重ねをして、ものを見る眼を高めていけば、もっと良いものが作れるようになるでしょう。

今回惜しくも受賞できなかった作品でも、少しやり方を変えれば入賞するようなよいものがいっぱいありました。来年に向けて、もうふた頑張りくらいして、次回はもっとレベルをあげてほしいと思います。

平成10年3月11日

審査員 松尾高明
（陶芸家）

第27回

陶芸の部 入賞者

賞名	題名	氏名	住所
いわき市長賞	ハート（ハート）	古樫冬子	
いわき市議会議長賞	道	平子タキ子	
いわき市教育委員会教育長賞	白萩花鉢（ゆめ）	和知キミ子	
《佳作》			
いわき商工会議所会頭賞	花さし	若松太久	
いわき市文化団体連絡協議会会長賞	花器	広瀬和夫	
福島県報徳社賞	花釉組皿	伊達義道	
美術館友の会賞	悠遠	星尚子	
有限会社平電子印刷所賞	中鉢	遠藤五郎	
ギャラリー界隈賞	中鉢	栗田和可子	
ギャラリー磐城賞	湖	伊藤イミ子	

作品を見せてもらって

審査をする前に、いつも大変緊張いたします。それは私も物作りですので、他人の作品に優劣をつけて良いのかと悩むからです。

作品を創作する点では、プロもアマチュアも異なる事なく、自らの思いを形にするだけですから、優れた作品にはプロもアマチュアも無いと思います。そこで全体を観て、どの作品を購入しようかと考える事にしています。

こうすれば審査にも力が入り、損はしたくないですから必死になります。今回購入したく思ったのが10点で、星尚子さんの「陶舞衣99－Ⅱ」は手のたしかさと造形力を感じ、中島亨氏の「波」はリズミカルで不思議な魅力と金属との組み合せに少し戸惑いましたが全体的に良しと思い、平子貞男氏の「窯変壺」は安定した力とバランスの良い作品だと思います。箱﨑りえさんの「びっくば〜ん」は自由で微笑ましい作品でした。全体的にもう少し明るい釉薬と明るい焼成をしていただければ良いと思います。数点加飾過多の作品が目に付きました。力を抜いて力強く、窯に「愛してる」と言えばぜったい良い作品は出来ると思いつつ、粘土をいじれば大丈夫。

平成11年3月10日

審査員 寺本　守
（日本工芸会正会員、茨城県在住）

第28回

陶芸の部 入賞者

賞名	題名	氏名	住所
いわき市長賞	陶舞衣99－Ⅱ	星　尚子	
いわき市議会議長賞	波	中島　亨	
いわき市教育委員会教育長賞	窯変壺	平子貞男	
《佳作》			
いわき商工会議所会頭賞	びっくばーん	箱﨑りえ	
いわき市文化団体連絡協議会会長賞	つつむⅢ	樫村允子	
福島県報徳社賞	絆	太田　太	
美術館友の会賞	冷艶	菅原洋子	
有限会社平電子印刷所賞	Ⅲ	坂本娃子	
ギャラリー界隈賞	海辺	鈴木康美	
ギャラリー磐城賞	自然（じねん）	森　大岳	

審査を終えて

市民美術展という枠のない自由な発想で作られた作品を審査させていただくにあたって、私なりに次のような基準に重点をおきました。それはどのような想い、または感性を作品に表現しようとしているのか。そして、その表現がどのくらい結果として作品に実現しているかということです。

全体の作品を見渡してみて、それぞれが個性的でバラエティーに富んでおり、10点に絞り込む審査は困難なものでした。その中で、手慣れた櫛目と焼き色の躍動感がバランスよく表現されている、平子貞男さんの「還元焼成花器」、自在な色づかいと紋様が、静かな丸みを感じさせる器にぴったりと納っている、箱崎りえさんの「びっくばーんⅢ」、艶めかしいフォルムを首の部分の加飾でキリリと引き締めた感性豊かな、水野山翠さんの「ツボ」、以上三点を上位の賞としました。

その他では、遊び心、優しさたっぷりの池内さんと鈴木さんの作品、安定した穏やかな作風をもつ伊達さんの作品に好感を持ちました。

最後に、技術も大事なことですが、作品に込める想い、自分の感性の発見に留意されてより良い作品がたくさん創出されることをお願い申し上げます。

平成12年3月8日

審査員 村上東市
（日本工芸会正会員、栃木県在住）

第29回

陶芸の部 入賞者

賞名	題名	氏名	住所
いわき市長賞	還元焼成花器	平子貞男	小川町上小川
いわき市議会議長賞	びっくばーんⅢ	箱崎りえ	平中神谷
いわき市教育委員会教育長賞	ツボ	水野山翠	三和町下市萱
《佳作》			
いわき商工会議所会頭賞	チムニー2	中島亨	洋向台
いわき市文化団体連絡協議会会長賞	櫛目文様大鉢	左近司愛子	小名浜上神白
福島県報徳社賞	花器（一輪挿し）	高崎善榮	内郷高坂町
美術館友の会賞	望	坂本娃子	中央台
有限会社平電子印刷所賞	クロス七態	鈴木理恵子	若葉台
ギャラリー界隈賞	ふぐの親子	池内こう	仁井田町
ギャラリー磐城賞	華三島鉢	伊達義道	自由ケ丘

審査を終えて

事務局の方の御話では、本年の出品数は、昨年の倍との事で、大変喜ばしい事だと存じます。

今まで、県展でも、いわき市関係の出品が少なく、さみしく思っておりましたが、今回、審査に出して戴き、将来が楽しみに思われました。

全作品を拝見いたしますと、本格的なグループと、アマチュアの陶芸教室の、二グループの様に思われました。

実際審査に当たりますと、どうしても大きい物の方が強く感じられます。

第一席の市長賞の斉藤浩子氏の「青白磁蓋物」は、完成度が高く感心いたしました。

第二席の児玉良介氏の「彫紋壷」は彫りがシャープで大変良い様に思われましたが、今後の展開がたのしみな作品でありました。

この二点は、中央展でも入選できるレベルにあると思われました。

又、三席の水野山翠氏、四席の鈴木康美氏、五席の古川喜之氏の三者は県展へ出しても遜色がない様に思われました。

六席から十席の五氏の方々は、これからの展開がたのしみです。

六席の志賀和枝氏の「灯」は、審査の時、点灯したら光が目にささる様な感じがしまして、展示に当たり、上蓋の内側に和紙をはる様、指導しましたが、この作品だけでなく、実際使用する事まで考えて、仕上げをしてほしいものです。

最後になりますが、全体の感じとして、伝統的なフォルムの物が多かった様に思えましたが、今後に於いては、新しい象形の方向のものが出て来ればと思います。

平成13年3月9日

審　査　員　田代清治右衛門
（日本新工芸家連盟会員、十五代相馬駒焼）

第30回

陶芸の部 入賞者

賞名	題名	氏名	住所
いわき市長賞	青白磁月下美人文蓋物	斉藤浩子	勿来町
いわき市議会議長賞	信楽彫紋壷	児玉良介	常磐関船町
いわき市教育委員会教育長賞	焼〆壷落葉	水野山翠	三和町下市萱
《佳作》			
いわき商工会議所会頭賞	山なみ	鈴木康美	好間町北好間
いわき市文化団体連絡協議会会長賞	塩釉織部吹壷	古川喜之	錦町
福島県報徳社賞	灯（あかり）	志賀和枝	小浜町
美術館友の会賞	掻落薔薇文皿	樋田和代	小名浜
有限会社平電子印刷所賞	微風	池内こう	仁井田町
ギャラリー界隈賞	鉄線文様壷	鈴木知子	平中神谷
ギャラリー磐城賞	HOSHIZORA	井上征子	小島町

審査を終えて

最近は陶芸のプロとアマチュアの区別がつきにくくなっている、と主人とよく話します。陶芸ブームで全国的に陶芸教室が増え、粘土や窯など多種多様な陶芸材料がいつも手に入り、技法や技術を記した図書も多く、誰でも作品を作って展覧会を開くことができるのです。そして私はつい最近のこと、テレビで往年のハリウッドスターが出演する番組を見ておりました。締めくくりに映画評論家が〝彼は偉大なるアマチュアである〟と述べておりました。その言葉はあらためてプロとアマチュアの意味を考えさせられるものでした。今やプロとアマチュアの垣根がなくなっていると思えるのです。それはクリエイティブな作陶を続けてこそ偉大なアマチュア、あるいはプロと認知されるのではないかと。

さて、今回展覧会を見せていただいてその所感を少し記したいと思います。全体を見て感じたことは、楽しんで作陶にはげんでいる様子がうかがえますが、もっと独自性があってもよいのではと思いました。市長賞を受賞した「〇」鈴忠壽さん、完成度がありました。議長賞の「ニューヨーク」鎮魂作品、きれいにまとめすぎて迫力は感じませんでしたが、コンセプトがしっかりし、全体として良かったと思います。野口孝寛さんの皿、児山敏雄さんの鉢、織部釉葉皿、花器などの器は素直で使いたいと思いました。皆様それぞれの方向で頑張って下さい。楽しみにしております。

2002年2月20日

審査員 伊藤知香
（伊藤アトリエ主宰）

第31回

陶芸の部 入賞者

賞名	題名	氏名	住所
いわき市長賞	〇	鈴忠壽	鹿島町走熊
いわき市議会議長賞	ニューヨーク鎮魂	菅原洋子	泉町黒須野
いわき市教育委員会教育長賞	忘却の闇	亀田大介	双葉郡浪江町大堀
《佳作》			
いわき商工会議所会頭賞	YO－YO	箱崎りえ	平中神谷
いわき市文化団体連絡協議会会長賞	バラ模様練上げ大鉢	志摩一夫	平谷川瀬
福島県報徳社賞	備前窯変大皿	野口孝寛	三和町合戸
美術館友の会賞	織部釉鉢	児山敏雄	平
有限会社平電子印刷所賞	焔	古川喜之	錦町
ギャラリー界隈賞	織部釉葉皿（5枚組）	渡邉カヨ子	内郷高坂町
ギャラリー磐城賞	花器	松本千晶	大久町大久